



第24回Wリーグ開催に伴う 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

10月5日 Ver.1

1. はじめに

第24回Wリーグ(2022-23シーズン)は、2022年10月19日(水曜日)より開幕いたします。
新型コロナウイルス感染症への対応については、国内の感染状況に鑑みながら、感染予防対策を徹底した上で観客入場数の制限なく開催する運びとなりました。

本ガイドラインは、第24回Wリーグ(2022-23シーズン)に向けて、新型コロナウイルス感染症の感染予防および対処についてのWリーグ選手、関係者の行動指針を示し、安全にWリーグ公式戦を実施できるように意識を統一することを目的として作成したものです。

本ガイドラインに示す内容は、対策に向けての共通ルールと位置付け、必ず実施していただくとともに、各チームにおいても適宜、感染症の感染予防対策を実施するようお願いいたします。

まず、1. 身体的距離の確保(できるだけ2m)、2. マスクの着用、3. 手洗い、の3つを、一人ひとりの方の基本的な感染防止策としています。

また、日常生活では上記に加えて、「3密」の回避や、換気、まめな体温・健康チェックが効果的です。

「新しい生活様式」 ※厚生労働省HPより抜粋

<https://www.mhlw.go.jp/content/000641913.pdf>

感染状況に基づく政府の対策、都道府県の方針に従うことが大前提とし、状況の変化に応じて、本ガイドラインを随時更新いたします。

■新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の特徴

- ・発熱、咳、倦怠感、味覚・嗅覚障害等の症状が報告されている
- ・発症日の2日前から他人へ感染させる可能性があり、その間に濃厚接触した者は隔離の対象となる
- ・感染から発症までの潜伏期間は1~14日、平均5日とされている
- ・感染源を調査する場合は過去14日間の行動記録(対人接触)をさかのぼる

2. 必ず行うこと

①統一抗原検査(リーグ公式)

- ・対象者:出場全チームにおいて毎試合ベンチ入りする者=エントリーメンバー
選手・HC・各コーチ・TR・MGR・GM・部長およびWリーグ担当審判員、Wリーグ事務局員
- ・Wリーグ公式戦が行われる週において、当該試合日の**3日前**に、チーム拠点にて行う。
レギュラーシーズン13週=全13回および、プレーオフは当該チームのみ実施する。
 - *上記の公式検査を実施しない者は原則として本シーズンのベンチ入りを認めない。
※但しチーム手配にてPCR検査もしくは抗原検査にて陰性証明が提出された場合は認める。
 - *上記統一抗原検査の費用はエントリー者に限りWリーグが負担する
※第24回大会ではデンカ(株)抗原検査キットでの検査を公式検査とする。

【抗原検査とは】

抗原が検出できれば、高価な機械や訓練、労力がなくても、感染しているかどうか、短時間で診断でき、**新型コロナウイルス感染症の新規感染を診断するのに適している**といえます。ただし、PCRとは異なり、検出にはより多くのウイルスが必要であり、**PCRに比べて精度が劣ります**。このため、抗原検査はPCR検査と組み合わせて活用することが多く見受けられます。

抗原検査結果は、別紙所定の報告書に必要事項を記入の上、検査後速やかにリーグへ報告する。
未受検者や、遅延検査者等も報告すること。

WJBL事務局 御中

第24回 Wリーグ
抗原検査 実施報告書

・チーム名 :
・担当者名 :
・受検日 :
・受検人数 : スタッフ (●名)、選手 (●名)
・検査結果報告
上記、受検者全員の陰性を確認いたしました。
または
「役職・氏名」の陽性反応が出ました。
陽性が確認できた者以外は、陰性を確認いたしました。
以上

※非受検者がいる場合<役職/氏名/非受検理由>を下記に記載してください
非受検者
・
・
・
※受検に遅延が発生する方がいる場合<役職/氏名/受検日>を下記に記載し

・対象者がシーズン期間において、新型コロナウイルス感染者となった場合、保健所の指示に従って病院、自宅、もしくは宿泊施設での療養を行う。退院、隔離解除の基準は医療機関、保健所の指示に従い、退院後の復帰についてはp. 9にある「退院後～復帰への基準」に則る。

・対象者がシーズン期間において、濃厚接触者となった場合、保健所の指示に従い自宅等で隔離待機すること。隔離解除の基準はp 10にある「濃厚接触者の復帰フロー」に則る。

＊チーム独自でPCR検査・抗原検査を行う場合は上記の定期抗原検査分を前倒しで使用してもよい。(追加分はチーム負担とする)もしくは、急を要する場合はチーム負担にて近隣の医療機関にて検査を実施してもよい。

・やむを得ない事情でリーグ統一抗原検査が受検できなかった場合、速やかにWリーグへ当該選手・スタッフ名を報告すること。

原則として直近の統一抗原検査を受検し、陰性判定を受けていない選手の出場は認めない。自チーム負担・手配にてPCR検査・抗原検査を実施し検査実施を証明できる資料をWリーグに提出すること。

②健康管理日報(アトレータ)の記入と管理

・対象者:出場全チームにおいて当日ベンチ入りする者
選手・HC・各コーチ・TR・MGR・GM・部長など
※①を実施する(した)者のみ

本来のベンチ入りは各チームエントリー者であるが、今大会は感染予防の観点から健康管理日報に記載のある者で、且つ「37.5℃以上または平熱+1.5度を超える発熱」がない者のみベンチ入りを可とする。

・記入期間:2022年8月15日(月)～シーズン終了までの毎日
・健康管理は「アトレータ」等を利用して、各チーム部長が「健康管理責任者」として管理する
・「アトレータ」のマスト入力項目は「体温」「体調」「味覚障害」項目とする

・健康管理日報に記載のある者で、37.5℃以上または平熱よりも+1.5 度を超える発熱がある場合は、可能な限り他の選手と隔離し、速やかにWリーグへ報告すること

【追記】

チームからの報告者は「運営部会メンバー」とする。

報告宛先はWリーグ専務理事もしくは事務局長とし、電話にて直接伝達すること。

急を要する場合、チームTR・MGRからの報告は必要だが、運営部会メンバーからの電話連絡をもって「報告」と定義する。

※一般的な目安は 37.5 度とされているが、平熱の高低差があるため、早期に発熱者をスクリーニングするために平熱+1.5 度も発熱ありとする。以後の本文における解釈についても同様です。

③行動記録の記入と管理

・対象者:当日ベンチ入りする者

- 選手・HC・各コーチ・TR・MGR・GM・部長など

※①を実施する(した)者のみ

Wリーグから提出要請があった場合は、健康管理担当者の責任において速やかに提出すること

例) #1 山田 花子

主な行動 6:00 起床	9:00 チーム練習
12:00 昼食	13:00 外出(行先〇〇、交通手段、同伴者)
18:00 帰宅	19:00 夕食

※「アトレータ」の備考欄に記入をお願いします。

※②③はアトレータに準ずるツールの利用も可とするが、リーグが内容の提出を求めた場合は速やかに協力すること。

④リーグへの報告

①に記載しているとおり選手・チームスタッフ等エントリースタッフが下記に当てはまる場合、対象者は自宅待機とした上で必ずWリーグへの報告を行うこと。

- ・37.5℃以上または平熱よりも+1.5 度を超える発熱を認めた
- ・せき | 頭痛 | 体のだるさ | のどの痛み | 食欲低下 | 睡眠時間 | 味覚や嗅覚の異常がある
- ・発熱が無くても「息苦しさ(呼吸困難)」「強いだるさ(倦怠感)」等強い体調不良を感じる
- ・Wリーグがチームに義務付けるリーグ開催前の検査以外でP C R 検査を予定している
- ・上記の P C R 検査の結果が出た

上記コロナ疑い症状例以外であっても、ゲームエントリーから外れるようなコンディションの選手・スタッフが発生した場合は、内容共有のためリーグに報告すること。

試合前に行う「審判・チーム(MGR)による健康チェックミーティング」にてエントリーメンバーの体調不良情報については確実に共有すること。

併せて選手・ヘッドコーチが不帯同となった場合は、試合前日までに自チームのHPもしくはSNS 対外的情報開示を必ず行うこと。その他ベンチ入りエントリースタッフの開示は不要とする。

チームからの報告者は「運営部会メンバー」とする。

報告宛先はWリーグ専務理事もしくは事務局長とし、電話にて直接伝達すること。

急を要する場合、チームTR・MGRからの報告は必要だが、運営部会メンバーからの電話連絡をもって「報告」と定義する。

■報告の際、以下の事項についてお知らせください

- ・症状の発生した当該者の役職や所属セクション※個人名の公表義務はございません
- ・発生している症状と、発生期間
- ・医療機関の受診状況や、チームドクターなどへの相談経過
- ・選手やチームスタッフとの接触歴(症状発生から 2 日前にさかのぼって)

■選手及びチーム関係者に疑い症状が出た場合の対応

- ・対象者から症状が出た日から14 日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録のヒアリング
- ・症状を自覚した時点で速やかに報告/自宅待機
- ・チームドクターに報告:チームドクターは各地域の専門家・連携医療機関への連絡

■報告・相談の取り扱いについて

- ・Wリーグ内コロナ対応担当だけが情報の閲覧権限を有する
- ・他チームの参考となる場合は個人情報を取り除いた上、情報を共有することがある

※緊急時などチーム⇄リーグ間の報告を簡略化するため、Wリーグ職員がアトレタの管理者として登録されています。個人データの取り扱いについては守秘義務を遵守いたします。

⑤疑い症状がある場合の相談や医療について

■疑い症状がある場合の相談

厚生労働省が発表している、以下いずれかの目安に該当する者は、チームドクター、受診者相談センター、医療機関にあらかじめ電話で相談すること。

1. 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱などの強い症状のいずれかがある
2. 高齢者や基礎疾患がある者で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある
3. 比較的軽い風邪が続く、特に 4 日以上続く場合は 37.5℃以上または平熱よりも +1.5 度を超える発熱が無くても相談する
4. 37.5℃以上の発熱が 2 日間続いた場合(個人差があるため平熱が低い方はプラス 1.5 度を基準)

※感染者でも発熱症状が出ないケースもあるため、上記症状を感じた場合は必ず相談すること
相談・受診の時点で症状が出た日から 14 日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録を準備し、受診相談センター、チームドクターを含むチーム側にも共有すること。
(症状を自覚したタイミングで報告/自宅待機を行うこと。)

※受診相談センターはすべての都道府県に設置され、24 時間対応しています。詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

【受診相談センター ホームページ】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html

■疑い症状又は濃厚接触疑いがある場合のチームの活動

選手・チーム・スタッフに新型コロナウイルスの感染疑い症状が出た、もしくは感染疑い症状があり PCR 検査を受け、結果を待っているなどの状況の場合、チームドクターなどに相談を行いながら本人以外の活動を検討してください。

★保健所による濃厚接触者判定が受けられない場合は、別紙「第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断フロー」に従い判断する。

⑥PCR 検査等の結果、陽性反応が出た場合の対応

■陽性判定が出た本人の対応

- ・検査結果を所属チームへ報告
- ・医療機関もしくは保健所から指導された療養方法とその他の情報をチームへ共有
- ・療養(入院または自宅療養)
- ・状況に応じて療養の途中経過をチームへ報告

■陽性判定者が所属するチームの対応

- ・本人からの報告をWリーグへ報告
- ・チームドクター等に相談する
- ・濃厚接触者の抽出及び集団発生に対するリスクの管理

濃厚接触者の定義

「感染された方と近距離で接触、あるいは長時間接触(車内・航空機内等含む)し、今後発症する可能性が高い方」(目安:マスクをせず陽性者と1メートル以内、15分以上の接触)

1. 医療機関受診の対象者の確認:健康チェック表、自覚症状を確認の上、医療機関受診対象者の確認(チームドクターなど)
2. Wリーグと今後の方針を相談
3. 保健所による濃厚接触者と判断された選手およびチーム関係者は、陽性者と接触した日から2日後と3日後に抗原検査で陰性が確認できれば予定通り試合・練習を行う

4. チーム全体の活動はこの時点では停止しないが、検温等の健康チェックをより厳正に実施する
5. マスコミ対応:チーム、リーグとしてプレスリリースなどへの対応

⑦保健所による濃厚接触者と判断された場合の対応

■本人又は同居者が濃厚接触者と判断された場合

- ・本人は自主隔離を行うこと
- ・チームドクター、専門家チーム・アドバイザーと相談のうえ、診察や検査の実施
- ・Wリーグへの報告

【濃厚接触者定に係る特定や行動制限の変更について】

同居・職場以外

・待機期間は5日間

・2日目、3日目の抗原検査陰性で待機解除（2022年9月13日現在）

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/corona_portal/shien/coronamidika.files/hasseibasyo5.pdf

★保健所による濃厚接触者判定が受けられない場合は、別紙「第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断フロー」に従い判断する。

⑧情報発信について

■情報発信の基準:

Wリーグ関係者(選手/ヘッドコーチ)がリーグ公式 検査で陽性になった場合、速やかに事実を発表する

- ・ゲーム実施の有無に直接的に影響しない場合は発表しない
- ・PCR 検査受診時は、発表しない
- ・発症による自主隔離も、発表しない
- ・個人名は原則として公表しない
- ・本年より濃厚接触者の場合は発表しない

⑨新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者が出た場合のレギュレーション

■感染者及び濃厚接触者が出た場合の試合の取り扱い

感染者及び濃厚接触者を除き、「抗原検査(リーグ統一)」において陰性が確認出来る1チーム7名の選手とJBA コーチライセンスのB(F)級以上を保有するコーチ1名が帯同できない場合、試合不成立・中止扱いとし、勝敗を付けない。

■感染者及び濃厚接触者が出た場合の対応

選手及びチームスタッフに感染者もしくは濃厚接触が確認された場合、当事者は医療機関による検査において陰性が確認出来るまで、試合を含めたチーム活動を以下の通り実施不可とする。

感染者	感染確認次第、適切な治療を受け、完治(判断基準は後述)までは活動を禁止。
濃厚接触者	感染者が発生次第、濃厚接触者を判断。 5日間 の自宅待機とし、活動を禁止。 ただし2日目、3日目 の*検査が陰性の場合は、待機解除(*自費検査)
非濃厚接触者	制限なし

■感染者が出た場合で且つ、試合当日までに濃厚接触者の判定が困難で不明確な場合

→別紙※「第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断フロー」に基づき判断する

原則として、体温が37.5度以上または平熱よりも+1.5 度を超える発熱の場合、本人は症状の有無にかかわらずエントリー不可。

Wリーグ独自基準により濃厚接触疑い者を特定する。

濃厚接触疑い者は当該試合のエントリーを認めない。

※専務理事判断 →専務理事判断にて試合を中止する場合がある

■感染者の復帰タイミング

感染者の復帰タイミングについては、厚生労働省の基準と競技特性を踏まえ、下記に示す目安を設定する。

- ・自宅療養解除もしくは退院可能(完治診断)からの復帰は、特に有症状だった場合は、体力低下や体調がすぐれないケースもあるため、チームドクターなどと相談しながら選手の復帰タイミングを検討すること。
- ・自宅療養、入院療養の場合も、新型コロナウイルス感染症の症状有無によって全体的な期間は変わり得る点に留意すること。
- ・また復帰までの時間は、症状の軽快まで個人差があるため、あくまで目安であることに留意すること。

<症状のある方>

発症日から7日間経過し、かつ、症状軽快から24時間経過している場合、8日目から療養解除を可能とする。

ただし、現に入院している場合には、発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合には11日目から療養解除を可能とする。

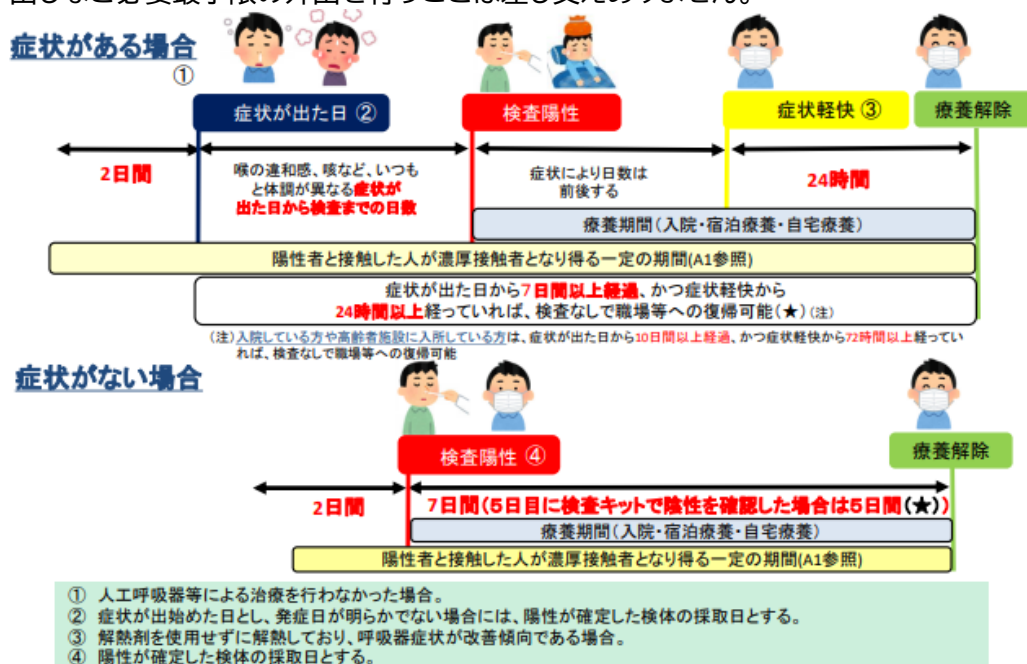
<無症状の方>

検体採取日から7日間を経過した場合には8日目に療養解除を可能とする。

加えて、5日目の検査キットによる検査で陰性を確認した場合には、5日間経過後(6日目)に療養解除を可能とする。

※症状がある方は10日間、無症状の方は7日間、感染リスクが残存することから、自身による検温、高齢者等重症化リスクのある方との接触や感染リスクの高い行動を控えていただく等、自主的な感染予防行動の徹底をお願いします。

※療養期間中の外出自粛について、有症状の場合で症状軽快から24時間経過後又は無症状の場合には、外出時や人と接する際は短時間とし、移動時は公共交通機関を使わないこと、外出時や人と接する際に必ずマスクを着用するなど自主的な感染予防行動を徹底することを前提に、食料品等の買い出しなど必要最小限の外出を行うことは差し支えありません。



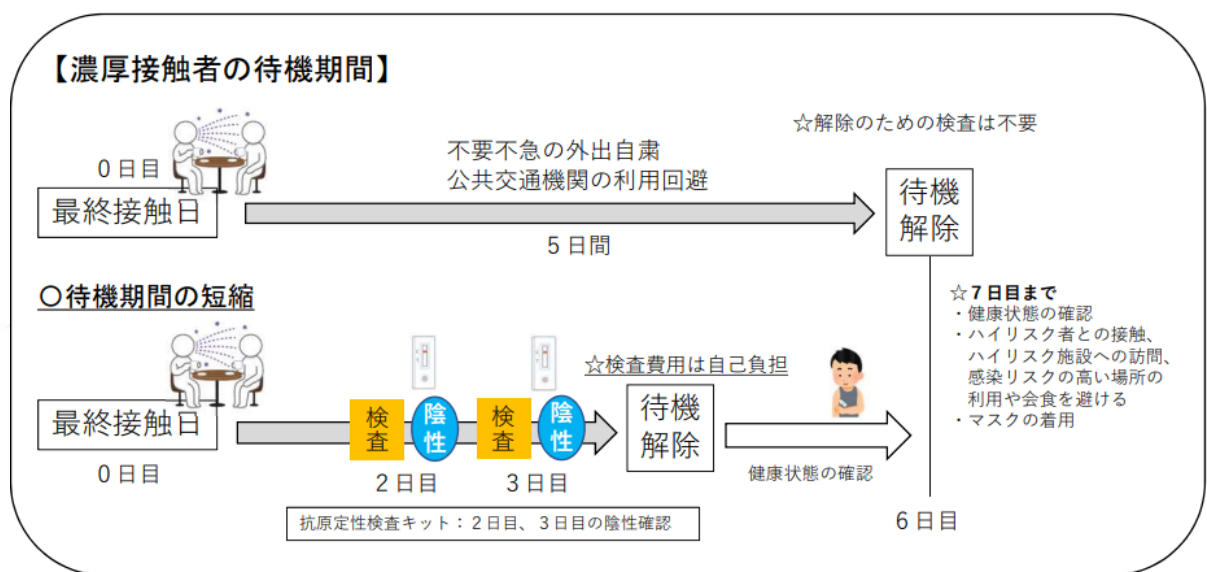
※厚労省HP参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

■濃厚接触者と判定された者の復帰タイミング

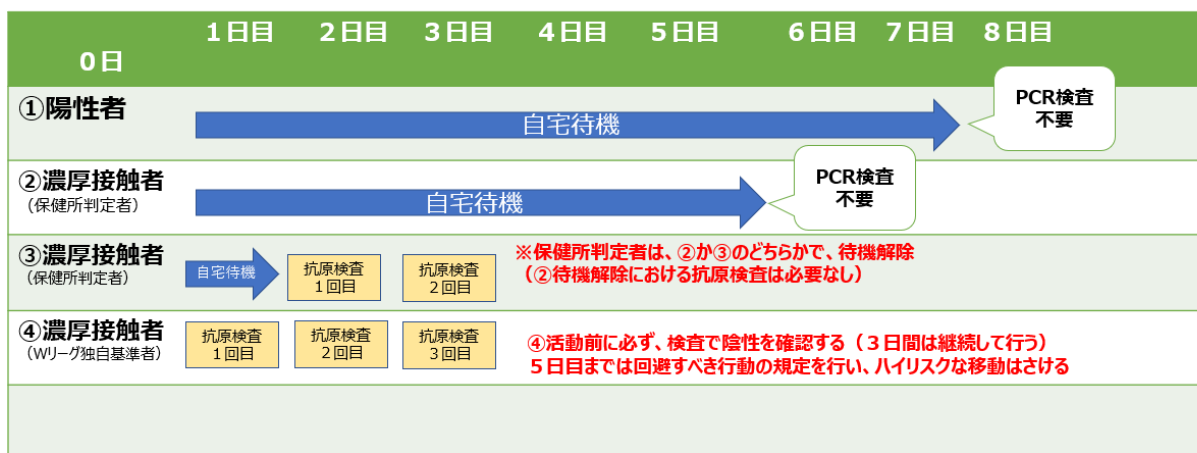
濃厚接触者と判断された場合、下記フローを参照し、判断すること

濃厚接触者の方の待機期間は、感染者と接触した最終日の翌日から5日間となります。ただし、検査で陰性が確認された場合は、待機期間を短縮することができます。なお、感染者と接触した最終日から7日間を経過するまでは、検温などご自身による健康状態の確認や、ハイリスク者との接触やハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避けること、マスクを着用すること等の感染対策を行ってください。

▶濃厚接触者の復帰フロー



陽性者・濃厚接触者の待機フロー



※別紙「第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断フロー」抜粋

⑩新型コロナウイルスの影響により試合実施不可能な場合の レギュレーション・順位の取り扱いについて

A:試合が単発で実施不可能になる場合

～一部チームで感染者および濃厚接触者が発覚した場合～

～アリーナ都合にて試合実施が不可能となった場合(施設利用者が感染など)～
もしくは専務理事判断につき当日の試合実施が不可能と判断した場合。

・試合の取り扱い

「抗原検査(リーグ公式)」において陰性が確認出来る最低限 1 チーム 7 名の選手と
JBA コーチライセンスの B(F)級以上を保有するコーチ 1 名が帯同できない場合、当
日の試合は行わない。

実施不可能となった試合の扱い

A:シーズン前半など代替試合が可能な場合

※ バイウィーク期間に代替試合を行う。チーム体育館なども活用。

B:シーズン後半など代替試合が不可能な場合

※ 「試合不成立」とし、当該試合を除いた最終「勝ち点」※にて順位を決定する。

※「勝ち点制」について

今シーズンの順位は「勝ち点制」を採用し、「勝ち点」により決定する。

「JBA2022 バスケットボール競技規則・チームの順位決定方法(一部例外あり)に準ずる」

○通常の試合 : 勝ちチーム 勝ち点2 負けチーム 勝ち点1

○試合不成立 : 両チームとも勝ち点1

※本年より試合不成立の場合、勝ち点1を付与する

○没収試合 勝ちチーム 勝ち点2、負けチーム(没収試合該当チーム) 勝ち点0

※試合不成立(コロナ感染、天災、設備不良等で代替開催も困難な場合)

※没収試合(一方のチームに起因する何らかの事情により試合の開始又は続行が困難となった
場合、あるいは試合の結果に影響を及ぼすような重大な違反行為があった場合)

◆2チーム以上が同じ勝ち点の場合は、下記の順序で順位を決定する。

- ・当該チーム間での対戦試合の勝ち点
- ・当該チーム間での対戦試合の総得失点差
- ・リーグ戦での全試合の総得失点差
- ・リーグ戦での全試合での総得点の大きい方

B:複数の試合が実施不可能となる場合

～感染が拡大し、リーグ戦を中断せざるを得ない状況の場合～

～複数チームで複数人が感染してしまった場合～

～明らかに試合実施が理由でクラスターが発生してしまった場合～

・試合の取り扱い

上記のケースを含め、様々なケースが想定されるが、その時点での情勢によって判断も柔軟に行うべきと考えるため、適宜リーグ運営部会・理事会にて協議する。

上記状況を受けて、複数の試合を中止した場合

①振替開催が行える場合は振替日程での勝ち点を採用する。

②中止した試合は「試合不成立」とし、当該試合を除いた最終「勝ち点」にて順位を決定する。

プレーオフ進出チームがコロナ感染事由により試合不可となった場合

・予定試合は「試合不成立」とし勝敗は付けない。

・非感染側のチームが次のステージに進出する。

例1) SQF対戦前にRS8位チームがコロナ感染事由により参加不可の場合

- 「SQF RS5位 vs RS8位」は試合不成立とし、勝敗は付けない
- 翌日のQFへは非感染側の5位チームが進出する。

例2) SQFの対戦後翌日にRS8位チームに陽性者が発生した場合(RS5位チームが勝利)

- 前日対戦した5位チームの濃厚接触者を独自判定
 - ①判定の結果RS5位チームに7名の選手と1名のコーチが揃わない場合
 - RS5位チームは出場不可。「QF RS3位 vs RS5位」は試合不成立。勝敗は付けない
 - RS3位チームがSFに進出
 - ②判定の結果RS5位チームに7名の選手と1名のコーチが揃う場合
 - RS5位チームはQFに進出

例3) F(RS1位vsRS2位)の対戦。初戦はRS2位チームの勝利。試合後RS2位チームに陽性者が発生した場合。

- 2戦目以降は試合不成立とする。Fで1勝しているため2位チームの優勝となる。

C:順位決定方法

・レギュラーシーズン順位:

少なくとも全14チームが 公式戦を50%(1チームあたり13試合)消化した場合につき順位を決定する。

レギュラーシーズンの勝ち点に応じて 1 位~14 位までを決定する。

※50%消化できなかった場合はレギュラーシーズンの順位を決めない。

・シーズン最終順位

- ① 優 勝 プレーオフ・ファイナルの勝者
- ② 準 優 勝 プレーオフ・ファイナルの敗者
- ③ 3位・4位 プレーオフ・セミファイナルの敗者で、レギュラーシーズン上位チームを3位とする。
- ④ 5位・6位 プレーオフ・クォーターファイナルの敗者で、レギュラーシーズン上位チームを5位とする。
- ⑤ 7位・8位 プレーオフ・セミクォーターファイナルの敗者で、レギュラーシーズン上位チームを7位とする。
- ⑥ 9位以降 レギュラーシーズン順位を参照

プレーオフにおいてコロナ感染事由により試合不可となった場合

プレーオフにおける原則:

- ・レギュレーション上「敗退」したチームからの復活繰上りは行わない
- ・レギュレーション上「敗退」していないチームは次のラウンドに進出できる権利を持つ
- ・各ラウンドにおける順位付け優先は「勝利」>「試合での敗退」>「試合不成立」とする
それでも同列の条件の場合はRSの順位にて最終順位付けを行う。

<SQF・QF編>

「試合前発覚」

例1) SQFのいずれか1試合が1チームの感染(試合前発覚)により、試合不成立の場合

→SQF敗退チームが7位、試合不成立の感染側チームが8位

例2) SQFのいずれか1試合が両チームの感染(試合前発覚)により試合不成立の場合

→試合不成立となった両チームのうちRSの順位が上のチームが7位、下が8位

→もう一方のSQFの敗退チームが6位

例3) SQFの2試合ともに片側のチームの感染(試合前発覚)により試合不成立の場合

→感染側2チームのうちRSの順位が上のチームが7位、下が8位

「試合後発覚」

例1) SQFのいずれか1試合で1チームの感染が試合後に発覚した場合

濃厚接触者をWリーグが独自判定し

勝利チームに既定のメンバーが揃わず翌日のQFは試合不成立の場合

→SQF敗退2チームのうちRSの順位が上のチームが7位、下が8位

→SQF勝利チームのうち、QF敗退チームが5位、試合不成立のチームが6位

例2) SQFの両試合でチームの感染が試合後に発覚した場合

濃厚接触者をWリーグが独自判定し

勝利チームに既定のメンバーが揃わず翌日のQFは試合不成立の場合

→SQF勝利チームのうちRSの順位が上のチームが5位、下が6位

→SQF敗戦チームのうちRSの順位が上のチームが7位、下が8位

※勝利チームが既定のメンバーを揃えられる場合はQFに進出

QFの場合も同様に考える。

<SF編>

「試合前発覚」

例1) SFのいずれか1試合が1チームの感染(試合前発覚)により、試合不成立の場合

→SF敗退チームが3位、試合不成立の感染側チームが4位(非感染側はF進出)

例2) SFのいずれか1試合が両チームの感染(試合前発覚)により試合不成立の場合

→無効試合となった両チームのうちRSの順位が上のチームが3位、下が4位

Fは行なわずSFの結果をもって順位を決定する

→もう一方の試合の勝利チームが優勝、敗者チームが準優勝

例3)SFの2試合ともに片側のチームの感染(試合前発覚)により試合不成立の場合
→感染側2チームのうちRSの順位が上のチームが3位、下が4位
SFは行わず非感染側2チームがFに進出する

「試合後発覚」

例1)SFのいずれか1試合で1チームの感染が試合後(1日目)に発覚した場合
濃厚接触者をWリーグが独自判定し
・一方のチームに既定のメンバーが揃わず翌日は試合不成立の場合
→SF敗退チームが3位、無効試合の感染側チームが4位
※SF勝利チームと試合不成立の非感染側のチームがF進出

・両チームに既定のメンバーが揃わず翌日は試合不成立の場合
前日勝利チームが3位、敗者チームが4位
Fは行なわずSFの結果をもって順位を決定する
→もう一方の試合の勝利チームが優勝、敗者チームが準優勝

例2)SFの両試合でチームの感染が試合後(1日目)に発覚した場合
濃厚接触者をWリーグが独自判定し
両チームに既定のメンバーが揃わず翌日は試合不成立の場合
→SF1日目勝利チームのうちRSの順位が上のチームが優勝、下が準優勝
→SF1日目敗戦チームのうちRSの順位が上のチームが3位、下が4位

<F編>

「試合前発覚」

例)いずれか1チームの感染(試合前発覚)により、試合不成立の場合
→RS上位チームが優勝、RS下位チームが準優勝

「試合後発覚」

例1)Fの1日目の試合で1チームの感染が試合後に発覚した場合
濃厚接触者をWリーグが独自判定し
一方のチームに既定のメンバーが揃わず翌日は試合不成立の場合
1日目の勝者が優勝、敗者が準優勝

例2)Fの2日目の試合で1チームの感染が試合後に発覚した場合
濃厚接触者をWリーグが独自判定し
一方のチームに既定のメンバーが揃わず翌日は試合不成立の場合
→RS上位チームが優勝、RS下位チームが準優勝

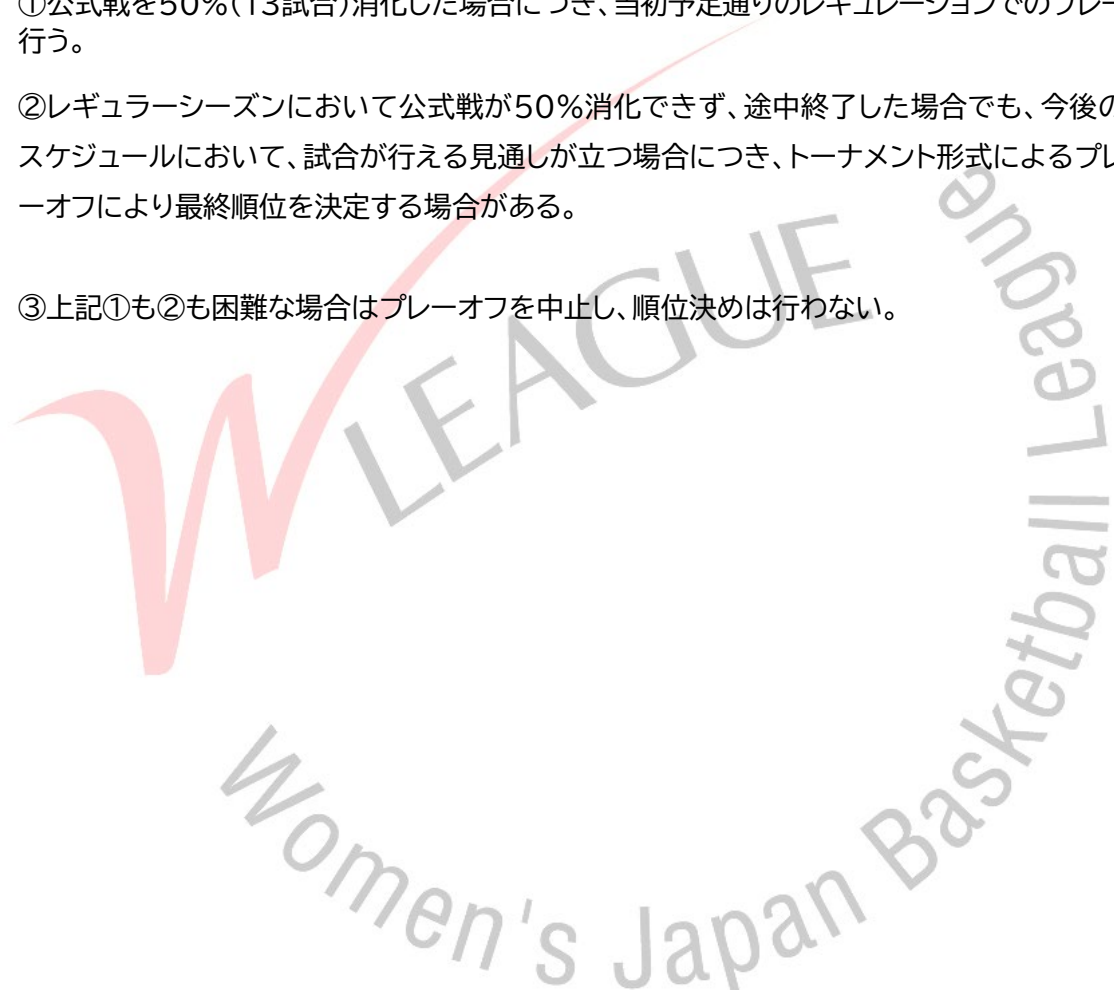
P16

D:リーダーズ・アワード

少なくとも全14チームが 公式戦を50%(1チームあたり13試合)消化した場合につき決定する。
50%消化できなかった場合はリーダーズ・アワードを選出・表彰しない。

E:プレーオフ

- ①公式戦を50%(13試合)消化した場合につき、当初予定通りのレギュレーションでのプレーオフを行う。
- ②レギュラーシーズンにおいて公式戦が50%消化できず、途中終了した場合でも、今後のスケジュールにおいて、試合が行える見通しが立つ場合につき、トーナメント形式によるプレーオフにより最終順位を決定する場合がある。
- ③上記①も②も困難な場合はプレーオフを中止し、順位決めは行わない。



3. トレーニング・練習

① JBAのガイドラインが基本

・トレーニングや練習については、公益財団法人日本バスケットボール協会(以下、JBA)のガイドラインを目安とし、ステップの移行は各クラブの判断に委ねるが、チーム所在地の都道府県、あるいは地方自治体などの上位団体の方針に従うことが前提となることに留意すること。チーム所在地の都道府県や地方自治体のような上位団体によるスポーツ活動再開等に関しての独自の方針がある場合はそれに従い、必要に応じて JBA ガイドラインを参考とすること。

※「JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン（手引き）」を参照ください

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/JBA_Guideline_5th_20220512.pdf

② 練習ゲームについて

・「2022-23 トップリーグプレゲーム確認事項(兼チェックリスト)」を基に、新型コロナウイルス感染症の感染予防および対処について「招聘元チーム」「招待チーム」「審判員」「TO スタッフ」が共同して情報共有に努めることとする。

・招聘元の企業及び体育館独自の入館ルールがある場合は「招聘元チーム」は事前告知の上、「招待チーム」「審判員」「TO スタッフ」はこれを遵守する。

・オンコートにおけるマスク着用のルールは公式戦同様とする。

③ アーリーエントリー選手

・例年どおりのアーリーエントリー要項に順じ、アーリーエントリー必要書類を提出の上、リーグで TeamJBA への登録完了が確認でき次第チーム練習参加可能とする。

・新型コロナウイルス感染症のまん延期におけるバスケットが感染リスクを伴うことについて、選手、保護者及び所属元に説明し、了解を得ていること。

アーリーエントリー選手の抗原検査は、エントリーする試合の3日前の検査からとする。

4. 移動・宿泊

① 都道府県をまたぐ移動について

都道府県をまたぐ移動の制約が再び発令した場合は、各自治体の指導のもと、移動の範囲は制限され、場合により公式試合の実施判断に影響が及ぶことに留意する。

② 交通手段について

・貸し切りバス：

事前の車内消毒はもちろん、運転手の体調管理やマスク・手袋の着用の協力、適度な換気を依頼すること。

車体サイズにもよるが可能な限り間隔を空けて着席すること。

・新幹線・飛行機

一般利用者との接点を極力減らすため、座席は可能な限りチームで固まって使用すること。移動の際は、個人単位で予防対策を徹底すること。

移動中の会話は極力避けること。

乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気を付けること。

③ チームでの食事について

・向かい合わせの配席は避け、選手の着席間隔を空けること。

・広いスペースが取れない場合は時間差での利用等の対策を講じること。

・ビュッフェ形式は極力避けること。基本的に一人ずつ取り分けた状態で食事を用意させること。

・食事中、宿泊施設の従業員等は極力在室しないように要請すること。

④ 宿泊施設での注意事項

・宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らすよう工夫すること。

・施設単位またはフロア単位での貸し切りを積極的に検討すること。

・食事会場はチーム専用となるよう手配すること。

チームが使用する部屋は事前の消毒、換気を宿泊施設へ依頼すること。

・連泊する場合の客室の清掃は、チームの不在時に行うよう依頼すること。

なお、清掃しないことも選択肢となり得る。

5. 無観客試合(リモートマッチ)

国内の感染状況に伴い、国や自治体からの要請があった場合、無観客(リモート)試合となる可能性がある。お客様の入場を認めないことはもとより企業関係者なども、入館できる人数を最小限とし試合を行う。

ここではリーグとして無観客(リモート)試合を実施する場合について記述する。

1)試合当日にアリーナへの入場できる者

①チーム関連

A:エントリー選手・エントリースタッフ

→ベンチ入りOKとする(アリーナフロア立入可) ※実施運営ガイドサマリーP.11 参照
本年のエントリーメンバーで且つ「抗原検査(リーグ統一)」を受診し、且つ「健康管理日報」「行動記録」を記入している者

※アーリーエントリー採用後エントリー外となったMGRは「抗原検査(リーグ統一)」を受診し、且つ「健康管理日報」「行動記録」を記入している場合、ベンチ入りを認める。但し選手はユニフォーム着用不可としウォーミングアップの参加も不可とする。補助は可。
試合前後におけるミーティングへの参加は認める。

【推奨】ワクチンの3回接種の推奨

Wリーグ医療アドバイザーよりメーカー名問わずワクチンの3回接種は感染拡大防止の重要な要素となっている指摘あり。

本大会参加においては接種の義務付けは行わないが、シーズンに向けてもベンチエントリーメンバーのワクチンの3回接種を強く推奨する。

B:エントリー外スタッフ(PGM登録役員、チームドクター、エントリー外のトレーニング系スタッフ)

ベンチ入りNG(試合中はスタンド席での観戦とする) ※実施運営ガイドサマリーP.11 参照
※公式抗原検査は受検必須とする。
試合前後におけるミーティングへの参加はできない。前日練習の参加は、可とする。

②審判員

JBAの指導のもと審判員に対しては以下の対応を行っている。※抜粋

1. 自身の感染防止のため

十分な休息、手洗い、移動中・会議中のマスク着用など体調管理ならびに感染予防に努める。

2. 他者への感染防止のため

①毎日の健康チェック及び検温を徹底する。

②体温が 37.5度以上または平熱よりも+1.5 度を超える発熱の場合は、審判活動及び会議への参加を控える。

3. 体温が 37.5 度以上または平熱よりも+1.5 度を超えている場合

①担当審判は、キャンセル対応のため速やかにJBA 審判部へ連絡する。また、審判当日の朝、体温が 37.5 度または平熱よりも+1.5 度を超えている場合も同様の対応とする。

※当日のキャンセルを極力なくすためにも、日々の健康チェックが非常に重要であることを十分に認識し、毎日の検温など自身でできる感染予防対策を徹底してください。

詳細については「実施運営ガイド」を参照。

③テーブルオフィシャルズ

試合中とその前後(業務中)は館内ではマスク + フェイスシールド着用とし、37.5度以上または平熱よりも+1.5 度を超える場合は交代する。

※本大会においてワクチン接種(3回)の義務付けは行わないが、シーズンに向けては、TO担当者のワクチンの3回接種を推奨するものである。

④コートスイーパー

試合中とその前後(業務中)は館内ではマスク着用(フェイスシールド着用は任意)とし、37.5度以上または平熱よりも+1.5 度を超える場合は交代する。

※本大会においてワクチン接種(3回)の義務付けは行わないが、シーズンに向けては、コートスイーパー担当者のワクチンの3回接種を推奨するものである。

⑤マスコミ・メディア各社およびテレビ中継クルー

原則マスク着用必須とし、フェイスシールド着用は任意とする。

なお、当日に 37.5度以上または平熱よりも+1.5 度を超えている場合は入場を認めない。

また、メディアは事前申請があった者のみ入場を許可する。

⑥ その他

1) 体育館スタッフ

P17 2) 演出・進行・装飾・警備業者スタッフ

3) Wリーグ関係者

上記スタッフは原則マスク or フェイスシールド着用とする。MCはマスク着用必須とする。

なお、当日に体温が 37.5 度または平熱よりも +1.5 度を超過している場合は入場を認めない。

2) 来場者のアリーナ入場時に必ず行うこと

※後述の「入場制限試合」でも原則同じレギュレーションとする。

① 入場チェック

入場口(原則 1 か所とする)で入退場チェックを行う。

リーグは実施内容と来場者数をふまえ、適正な人数と設備を設置する。

来場時点でマスクの着用有無を確認。着用していない場合はマスク保有の確認、ない場合は配布する。

【重要】選手・スタッフのマスク着用について

選手・スタッフのマスク着用は以下の通りに定める。

「マスク不要」: オンコートの選手のみ

「マスク着用」: 控え選手(※出場直前・直後は不要)GM、TR、MGR 等のチームスタッフ

選手交代時の外した後のマスク管理についてはチーム内で管理すること。
アリーナ内・オフコートについては着用を必須とする。

② 入場時の体温チェック

● 選手・チームスタッフ・審判

顔認証サーモグラフィー等 による体温スクリーニングで発熱症状が確認された場合、入場不可。

各クラブのトレーナーとチームドクター等で相談の上、「健康管理日報」もしくは「アトレータ」等に記録されている体温と比較し平熱と判断される場合は入場可、発熱と判断される場合は入場不可とする。

●その他入場者

顔認証サーモグラフィー等による体温スクリーニングにおいて発熱と判断される場合は入場不可とする。

体温測定済みの者の識別方法を工夫する。また再入場時も体温チェックを行う。

③入場者リストチェック

選手・チームスタッフ・審判以外は入場リストで氏名の確認を行う。

リストに名前がない場合は原則入場を認めない。名前がある場合は入場時間を記載する。

ただし、緊急の追加対応については、Wリーグ運営担当責任者/開催地大会責任者の判断による。Wリーグ指定の「誓約書」を確認、署名の上、2週間は開催地で保管すること。

※個人情報の取扱いに注意

3)試合当日の各種イベント等について

①各種メディア対応※後述の「入場制限試合」でも原則同じレギュレーションとする。

全ての来場メディアにWリーグより下記の対応について徹底を求める。

「事前申請」

「体温の確認」

「マスク着用」

「2m以上の距離の確保」

基本的にメディア対応は以下の方針に則る。

実施するもの：

■「リーグ主管試合」

本年度は、事前申請があった場合のみ、選手・コーチに対する囲み会見・取材をおこなう。

対応は最小限の人数とし、インタビュアーとの距離も2m以上必ず空けること。

※時間は1選手あたり5分程度とします。

【追記】※選手は原則マスク着用とするが、1社単独の取材等で十分な距離が確保できる場合はこの限りではない。

※チームや会場の都合によりお断りする場合あり。

■「クラブ主管試合」

主管クラブに対するもののみ囲み会見・取材をおこなう。

アウェイチームへの取材は不可とする。

②各種試合に伴うセレモニーについて

本年度はTIPOFF34分前のオープニングセレモニーをおこなう。

コート開放は、第1試合の場合TIPOFFの90分前とする。

1日複数試合開催の場合：

第2試合は第1試合終了後、すぐにセレモニーとなるため、第2試合のスタッフが第1試合のチームが捌け次第ベンチの消毒を行う。※第1試合チームは終了後速やかにベンチを離れること。終了後にベンチエリアでミーティングは行ってはならない。

<基本タイムテーブル>

- 90:00 コートインOK(第1 試合)
- 70:00 コートインスペクション(チームはコートクリア)
- 60:00 審判・チーム(MGR)・GMによる健康チェックミーティング(第1 試合の場合)
- 45:00 審判・チーム(MGR)・GMによる健康チェックミーティング(第2・3試合の場合)
 - ※目的：両クルー・メンバーの健康状態が問題ないことを確認・共有する。
- 40:00 オープニングセレモニー
- 30:00 アップ開始
- 12:00 HC スコアシートへサイン(ホームチームより)
- 10:00 キャプテンミーティング
- 03:00 3 分前ブザー／両チーム選手ベンチへ
- 01:30 1 分 30 秒前ブザー／審判団紹介

本年は、審判との キャプテンミーティングを行う。(試合開始10分前)

「審判・チーム(MGR)による健康チェックミーティング」も行うこととする

※目的：両クルー・メンバーの健康状態が問題ないことを確認・共有する。

エントリーメンバーの体調不良情報については確実に共有すること

第1 試合の場合 : 試合開始 60 分前

第2、3試合の場合：試合開始 45分前※試合未終了の場合は終了後に行う。

オンコートでの練習時は、ハンドホイッスルを推奨。笛を使用する場合は必ず「ホイッスルカバー」を使用する。

③対戦チーム同士のハイタッチなど各種所作について

以下の行為は感染防止の観点から自粛する。

・審判との握手(審判紹介後、試合前後など)

第24回大会より、以下の所作は可とする

・ベンチ同士(HC や部長)の握手

- ・試合中のチーム内でのハイタッチ
- ・試合後の両チーム同士のハイタッチ

④出待ち、入り待ち対応

Wリーグとしても告知をするが、無観客でも一目見ようと出待ち入り待ち行為をするファンの来場が予想される。

⇒出待ち入り待ち行為をするファンへの一切の対応を禁止とする。

※親族、他チーム選手、恩師、スポンサー、後援会長なども含め、公の場での接触行為は禁止とします。プレゼントを受け取る、写真・サインに応じることも厳禁です。

⑤選手ロッカー・控室での過ごし方

ミーティングなどやむを得ない場合を除き、決して広い施設ではないことと、密室であることをふまえ、長時間ロッカー室に滞留することは控える。※サブコートがある場合、開放するので、チーム間で譲り合いながら且つ距離を置いて使用してください。

6. 有観客試合(イベント開催制限について)

レギュラーシーズンは入場制限試合となる可能性がある。アリーナ内へ入場する人員を一定数保ちながら、クラブや選手、興行関連スタッフ、来場者の安全確保について最大限に配慮し、競技、興行の安定開催を第一とした運営を行う。

ここではリーグとして入場制限試合を実施する場合について記述する。

1)入場者の考え方

① 入場者の制限数について

イベント実施に際し、開催自治体へ手続きを行うことで、収容率50%以上で開催できます。

[内閣官房「新型コロナウイルス感染症対策」](#)で最新の情報を確認し、下記、「感染状況に応じたイベント制限等について」をもとに、各自治体より手続きを行ってください。

その他「5,000人又は収容定員50%のいずれか大きい方」で「大声なし：100%」で開催する場合、都道府県が定める様式に基づく感染防止策等を記載したチェックリストをイベント主催者等が作成・HP等で公表する。

イベント開催時のチェックリスト		別紙 5
具体的な対策例		【令和4年9月版】
開催概要	本項目では、チェックリストを記入する前に、イベントの情報を記載してください。	
イベント名	〇〇イベント (開催案内等のURLがあれば記載)	
出演者・チーム等	〇〇〇 〇〇〇	
開催日時	令和 〇年 〇月 〇日 〇時 〇分 ~ 〇時 〇分 (複数回開催の場合 → 別途、開催する日時の一覧をご公表ください。)	
開催会場	〇〇公園	
会場所在地	〇〇〇 △-△-△	
主催者	〇〇〇実行委員会	
主催者所在地	神戸市中央区下山手通〇-〇-〇	
主催者連絡先	(電話番号) 078-362-〇〇〇〇	(メールアドレス) 〇〇〇〇@×××.××.jp
収容率 (上限) ①~⑥の いずれかを 選択	大声なしで開催 ☐ ①収容定員あり 100% ☐ ②収容定員なし 人と人が触れ合わない程度の間隔 大声ありで開催 ☐ ③収容定員あり 50% ☐ ④収容定員なし 十分な人と人との間隔(1m) 「大声あり」、「大声なし」のエリアを明確に区分して開催 ☒ ⑤収容定員あり ☐ ⑥収容定員なし 大声なしのエリア：100% 人と人が触れ合わない程度の間隔 大声ありのエリア：50% 大声ありのエリア：十分な人と人の感覚(最低1m)	
収容定員	大声ありのエリア 100 人 大声なしのエリア 500 人	
参加人数	大声ありのエリア 50 人 大声なしのエリア 500 人	
その他 特記事項	大声ありのエリアは、チケット制、1席空けての配席をします。 (大声なしの場合は、大声なしと判断した理由や、大声を伴わないことを担保する具体的な対策を記載ください。)	

(※) 大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントは「大声あり」に該当することと整理する。

(令和4年9月8日事務連絡)

- [基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について](#)
- [イベント開催等における感染防止安全計画等について（改定その7）](#)

感染状況に応じたイベント開催制限等について

別紙 1

		安全計画策定（注1）	その他 （安全計画を策定しないイベント）
下記以外の 区域	人数上限（注2）	収容定員まで（注3）	5,000人又は収容定員50% のいずれか大きい方
	収容率上限 （注2）	100%（注4）（注5）	大声なし：100% 大声あり：50%（注5）
重点措置 区域	人数上限（注2）	収容定員まで（注3）	5,000人
	収容率上限 （注2）	100%（注4）	大声なし：100% 大声あり：50%
緊急事態 措置区域	時短	原則要請なし（注6）	原則要請なし（注6）
	人数上限（注2）	10,000人 （対象者全員検査により、収容定員まで追加可） （注7）	5,000人
	収容率上限 （注2）	100%（注4）	大声なし：100% 大声あり：50%

※遊園地やテーマパーク等については、都道府県知事の判断により、上記の緊急事態措置区域、重点措置区域と同様の制限を適用することも可能
（注1）参加人数が5,000人超かつ収容率50%超のイベントに適用（緊急事態措置区域、重点措置区域においては、5,000人超）
（注2）収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度（両方の条件を満たす必要）
（注3）地域の実情に応じて、都道府県知事の判断により、人数上限の制限を行うことも可能とする
（注4）安全計画策定イベントでは、基本的に「大声なし」の担保が前提
（注5）同一イベントにおいて、「大声あり」、「大声なし」のエリアを明確に区分して開催する場合、それぞれ50%（大声あり）・100%（大声なし）
（注6）都道府県知事の判断により要請を行うことも可能
（注7）対象者全員検査における検査結果の陰性を確認する対象者は、定められた人数上限を超える範囲の入場者とする。都道府県の判断により、対象者全員検査の活用を行わないことも可能

② 入場できないカテゴリー

基本的に来場不可とするカテゴリーは作らない。

上記キャパシティには、無観客試合時に来場が可能な者（選手・チームスタッフ・興行関係スタッフなど）は含まない。

③ 一般入場者

原則「前売り」での購入を推奨するが、残席がある場合当日券の販売を行う。

チーム企業社員および関係者を対象としたチーム毎のローピングは行わない。

④ ADカード保持者

Wリーグスポンサー、サプライヤーなどの関係者の入場は可能。

ただし「関係者入場口」より入場し、検温とリストチェック・誓約書の記入を行う。

立ち見観戦は原則不可とする。

事前申請は不要だが販売状況によっては入場を断る場合がある。

アリーナフロアへの立入やチームとの接触は原則不可とする。

⑤ その他

チア・マスコットのパフォーマンス入場を認める。

ただしチアはコート内の人数を最大15名までとすること。

パフォーマンス時もマスクを着用する。(オンコートでは、マスク着用なしでパフォーマンス可)

事前申請の無い場合パフォーマンスの実施は認めません。

試合のスムーズな進行及び選手を優先した諸室の確保のため、入場する場合は③もしくは④のカテゴリーとする。

2)アリーナ内のゾーニング

アリーナ内のゾーニングは密の防止など感染予防の観点から以下のブロックに分け、原則として各ブロック間の不要不急の往来は禁止する。

①アリーナフロア:選手・スタッフ・審判・TO・コートキーパー

運営・演出関連スタッフ・中継スタッフ・カメラ&スチールメディア

アリーナ指定席購入者75名程度

会場によってはエリア指定席購入者を含む。

②スタンド関係者エリア(2F):ペンメディア、ADカード保持者※実施運営ガイドサマリーP.11参照

③スタンド一般エリア(2F):一般入場者、チーム関係入場者

スタンド一般エリアは「自由席」とする。

試合中の座席の往来は原則禁止とするが、試合間での移動は認める。

3)アリーナ内その他

①換気・空調

無観客試合よりアリーナ内の人数は増えるため、よりこまめな換気をする。

オペレーションに支障がない範囲でなるべく各種入り口は開放する。

試合間の「公式消毒」実施時には「公式換気」も併せて行う。

②掲出物

原則、以下の「リーグ管理物」のみ掲出可能とする。

設置及び節ごとの移動・管理は運営スタッフが行う。

・Wリーグ 5 角フラッグ(リーグ主管試合:ニュートラル色/クラブ主管:クラブチーム色)

・チームバナー・LOVEDバナー(出場チーム)

リーグ主管・クラブ主管試合ともに、以下の掲出を認めます。

- ・チーム独自作成の横断幕・ローカスポンサー横断幕・選手個人の応援幕
- ※ただし相手チームからの掲出希望には柔軟に対応すること。

ファンによる持ち込み・掲出は不可とする。

- いわゆる「応援ボード」は自身の座席エリアに収まるサイズであれば認める。
- ※ただし掲出時には他のお客様の迷惑にならないように留意すること。

P24

4) 応援団他エンターテインメントについて

① 応援団

- ・今シーズンのレギュラーシーズンは応援団による応援扇動行為を禁止する。
- ・チーム独自の音響機器(スピーカー・サンプラー等)の持ち込みを禁止する。
- ・試合前の応援練習や大声でのあいさつ、試合後のあいさつを禁止する。
- ・立ち上がったの応援扇動行為は禁止する。
- ・BGMにあわせて手拍子やハリセンを叩く・掲げる等の行為は許可する。
- ・タオルマフラーの「振り」「回し」は禁止するが、「掲げる」は許可する。

② 音響・BGM

応援の音響については運営サイドにより以下についてのみ行う。

- ・オフENSE音(5 曲まで)
- ・タイムアウト音(3 曲まで)
- ・スターティング5(1 曲)

※すべて即使用できる状態での音源データをWリーグに提出すること。

③ オープニングセレモニーについて

- ・24回大会はグッズ投げ込み可とします。※リーグで各チームへゴムボールを支給
- ・主管を問わずエスコートキッズやお客様とのハイタッチなどのサービスは不可とします。
- ・後述のチアリーダーに関しては「花道での煽り」は「マスク着用」「一定距離確保」であれば認める。
- ・花道の作成を認める。「マスク着用」「一定距離確保」「選手動線の確保」(選手に触れないこと)
- ・選手への花束他記念品贈呈セレモニー→実施を認める。

ただしプレゼンターの人数は1～2名程度とし、必ずマスクを着用・手指消毒を直前に行う。

贈呈のみとし、握手をしたり選手との会話や身体的な接触は絶対に行わないこと。

写真撮影時のみマスクを外すことを認めるが、撮影後は速やかに着用する。

P28

・来賓等のお客様向けのスピーチについて→基本的には自粛をお願いしたい。

選手に対する感染拡大防止のため、なるべく自粛をしていただけますよう調整する。

止むを得ず行う場合、選手は一度ベンチに控えさせるように対応する。

④前座試合について

→実施を認める。

ただし、選手関係者は試合開始80分前までにすべてのイベントを終え、アリーナフロアから退出すること。※裏導線を含めてWリーグ選手との接触は絶対に避けるように配慮すること。

エキシビジョンであっても選手含む関係者の人数が多すぎないこと。

追加のベンチ椅子を出さないように。

⑤ハーフタイムイベントについて

→実施を認める。

ただし、パフォーマンスする者は、オンコートであれば、マスクなしでの演技を認める。人数は、最大15名であること。声を出したり、飛沫が飛ぶような行為は禁止する。

客席へ物を投げ込んだり、観客をアリーナ内に侵入させるような行為も禁止する。

※不安がある場合は必ず事前にWリーグ事務局まで問い合わせること。

⑥ チアリーダー・マスコット

チアリーダー・マスコットは以下の行為については認める。

- ・選手入場時の花道(選手との距離を保つ。マスク着用)
- ・ハーフタイムでのパフォーマンス(15名まで。オンコートに限りマスクなしで良い)
※クォータータイムでのパフォーマンスもOKとする。
- ・試合中に観客席で立ち上がっての応援扇動行為は絶対に禁止とする。

お客様が自発的にマスコットに触れてくることはやむを得ないが、必要以上に積極的に接触するようなパフォーマンスは避ける。

5)ファンサービスについて

出待ち入り待ち行為をするファンへの一切の対応を禁止とする。

※親族、他チーム選手、恩師、スポンサー、後援会長なども含め、公の場での接触行為は禁止とします。プレゼントを受け取る、写真・サインに応じることも厳禁です。

チーム会社社長などのスーパーVIPの来場の場合でも、一般のお客様の前で整列して挨拶をしたり、円陣を組んで挨拶をされたりするような行為はNGとする。

挨拶・接見が必要な場合は開催地責任者の許可を得てバックヤードで行うこと。

6) 来場客へのアナウンス

来場客に対して、下記の感染拡大防止対策について協力を要請するとともに対応への理解を求めること。

- ・入場口でのサーモゲートなどの通過を求める。
 - ※37.5 度以上の場合は声掛けの上、体温計での検温を行う。
 - 実際の体温が 37.5 度以上の場合は入場を認めない。
- ・再入場は可能であるがその都度ゲートの通過を求める。
- ・手指消毒液によるアルコール消毒への協力。
- ・エリア指定席・自由席の場合着座エリアの把握と記録
- ・半券に個人情報の記載協力。
- ・マスクの着用。
 - ※再三の要請にもかかわらず着用いただけない場合は退場していただく。
- ・紙チケットの場合、スタッフは券面の確認のみを行い、切り離しは来場客自身が行う。
- ・大声を発する応援行為の禁止

7) 1日複数試合のレギュレーション

第24回大会のレギュラーシーズンは1日複数の開催を行う状況によっては、チーム側にとっても通常のリーグ戦のような十分な環境が担保できない場合がある。

①練習会場：

- 複数チーム来場に伴い、希望どおりの時間で練習が困難な場合が想定される。
- ・当該アリーナフロア：前日＋当日で最低30分-60分の確保を目標とする。

- ・近隣のチームはできるだけ自チーム体育館の使用を求める。
- ・外部体育館の使用も検討されたい。※開催地でのあっせんは行わない。
- ・チーム間での調整は認めるが、必ずその結果を速やかに主管者と共有すること。

②アリーナへの入場・退場時間：

アリーナ内での密を防ぐため「入館時間」と「速やかな退場」に協力を求める。

原則：試合開始時間の1時間30分とする。

③試合間消毒への協力

試合間には必ず「公式消毒」を行うものとする(5 分間)

試合間消毒の場所：

- ・TO及びオペレーション卓
- ・コートキーパー椅子
- ・アリーナフロア

次の試合のチームが消毒を行う。前の試合のチームは、試合後とにかく速やかにベンチエリアから退出する。ベンチエリアでのミーティングは行ってはならない。

④ベンチ

ベンチ内におけるイスの配置は、1列とする。(21席)

24回大会では、ミーティング時など、ベンチエリアの両サイド迄広く使用することを認めない。

ベンチ内でのタッチや、若手選手によるタッチランニングなどは禁止とする。

スクイズボトルは個人専用とし、共用は行わない。

「チーム広報」のみ、ベンチ近辺での撮影を許可する。ベンチ入りは不可。

※専用ビブス、マスクを必ず着用すること。

⑤エンディングマイク

今大会のWリーグ・都道府県主管試合では「1日における最終試合の勝利チーム」より1名が、お客様にむけて「エンディングマイク」としてスピーチします。

「来場への御礼/試合の感想/次回のゲームの案内/締め言葉」を基本として適宜アレンジしていただければ結構です。

※複数試合の場合、次に試合があるケースでは行わない。

⑥退場・退館

試合後は速やかに退場すること。ファンへの手振りは許可する。

接触・会話・グッズの投げ入れ、差し入れの受け取りなどの行為は厳禁とする。

事前に申請のあった「囲み取材」以外は認めない。

親・兄妹・恩師等との接見も禁止とする。

第 24 回 W リーグ実施運営ガイド

本ガイドラインの補完資料として、実際のリーグ戦の運用については第 24 回「W リーグ実施運営ガイド」を参照する。



誓約書

一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ 御中



私は、Wリーグにおける試合会場に入場するにあたり、下記の事項確認・承諾し、ここに誓約いたします。

記

1. 現在から過去14日以内に、平熱を超える発熱はありません。
2. 現在、新型コロナウイルス感染症の「疑い症状」といわれる、せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、味覚・嗅覚の異常などの症状はありません。
3. 過去14日以内に新型コロナウイルスの感染者との濃厚接触はありません。
4. 同居家族、職場、身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われている人はいません。
5. 過去14日間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触はありません。
6. 本日から2日間以内に上記事項と異なる事象が発覚した場合は、速やかにWリーグ担当者までに報告いたします。
7. 新型コロナウイルス感染防止に伴う、リーグスタッフからの指示に従います。

西暦 年 月 日

所属（会社名・協会名）：

氏名（自書） ：

連絡先：

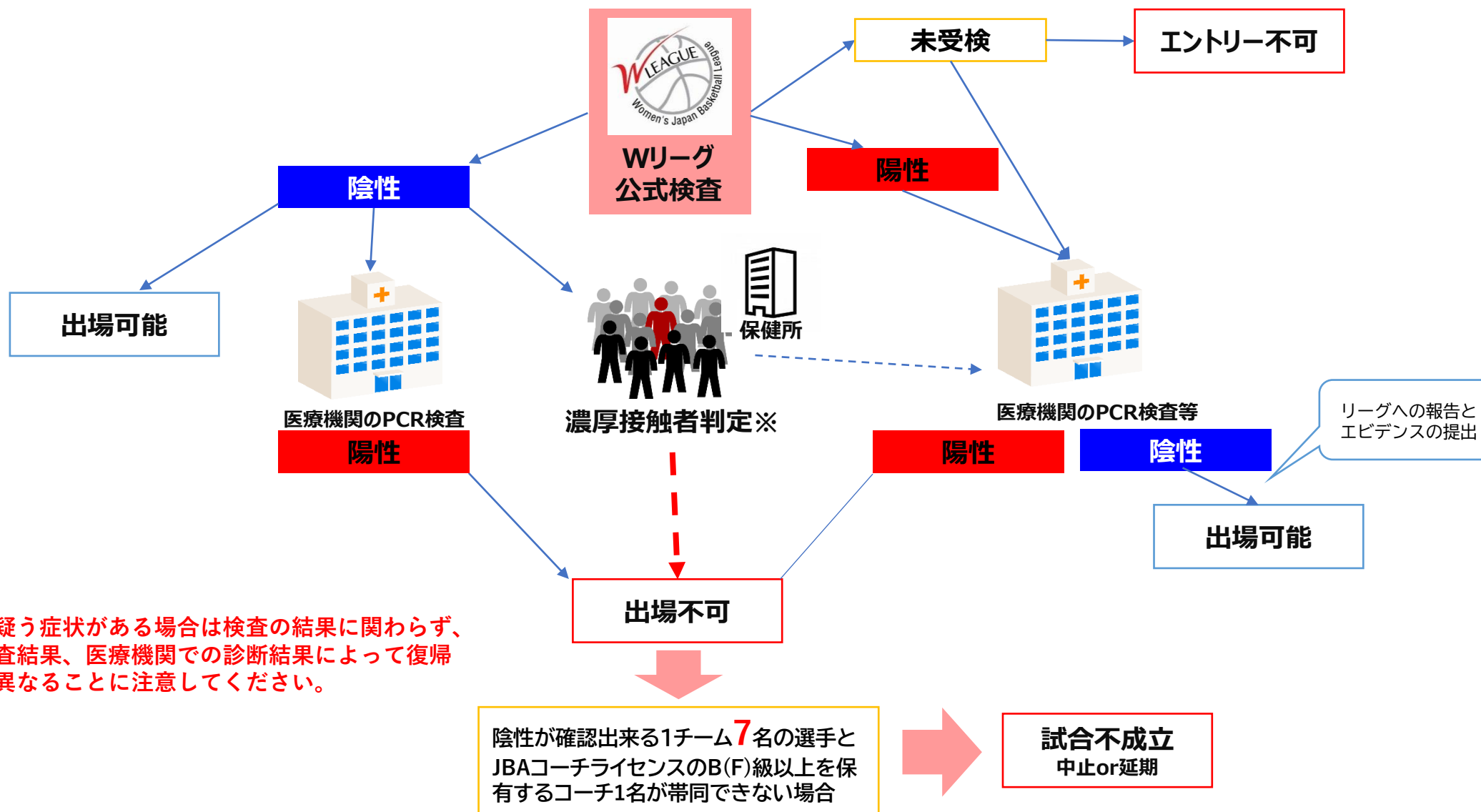
第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断フロー

主な変更点

- ①試合実施可能な人数 8人→7人
- ②罹患および待機後のPCR(抗原)検査の必要性
- ③濃厚接触者(独自)の対応方法
- ④試合不成立と没収試合の区分

①【選手・スタッフ】公式抗原検査結果に基づく対応フロー

～試合を前にして「陽性」「濃厚接触者（保健所）」が判定できる場合～



陽性者・濃厚接触者の定義とWリーグ独自基準

抗原検査日10/19（水）
（試合の3日前）

陽性反応
が出た

医療機関による陽性認定

1

7日間
自宅待機

〈症状がない場合〉
5日目に抗原検査陰性で
6日目より待機解除

8日目
10/27（木）

8日目から待機解除
※検査必要なし

最終曝露接触日

2

5日間
自宅待機

待機解除
※検査必要なし

「濃厚接触者」の考え方

②③は、保健所判定者。④は、Wリーグ独自基準判定者

3

3日間
自宅待機

デンカ抗原検査
1回目陰性

デンカ抗原検査
2回目陰性

2回陰性の確認が
出来たら待機解除
練習・試合OK

0日目
10/19（水）

1日目
10/20（木）

2日目
10/21（金）

3日目
10/22（土）

5日目
10/24（月）

4

デンカ抗原検査
1回目陰性で練習可

デンカ抗原検査
2回目陰性で練習可

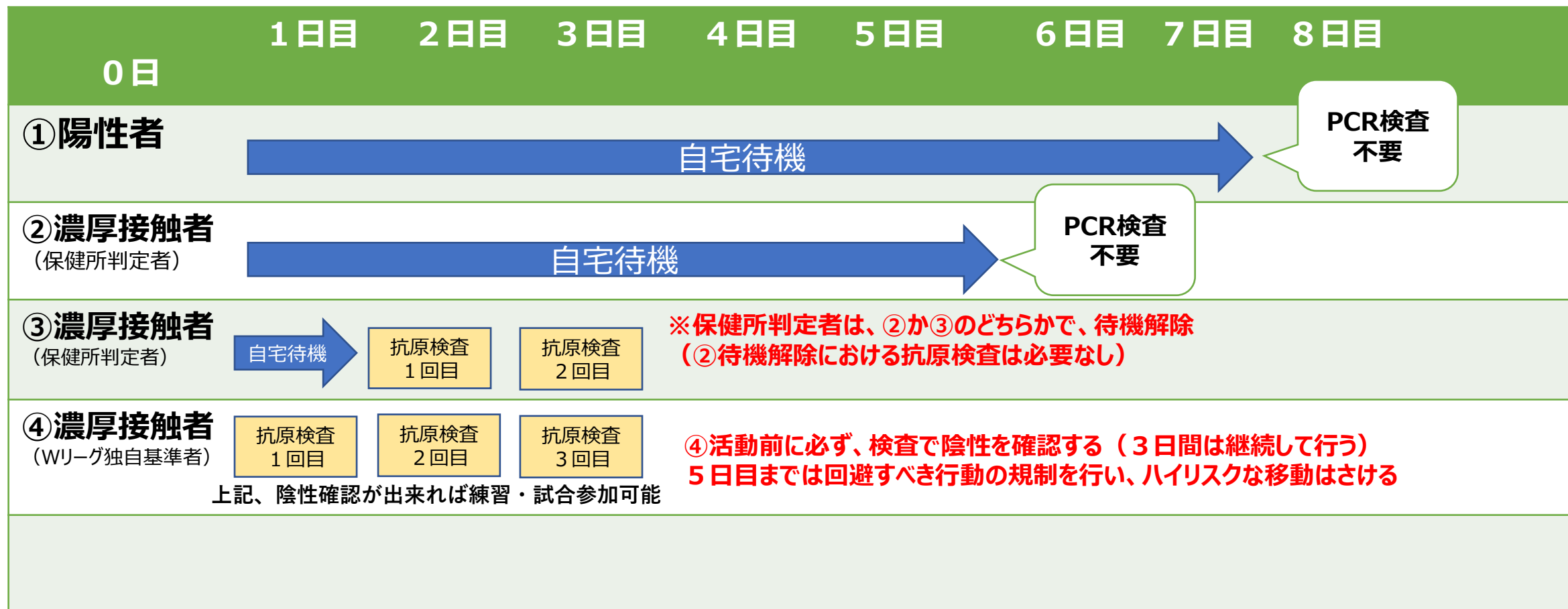
デンカ抗原検査
3回目陰性で練習可

陰性確認が出来たら
練習・試合OK
(待機期間なし)

重要な変更点

Wリーグ独自基準の濃厚接触者の場合、
抗原検査陰性が確認できた場合、待機期間なく、
練習・試合を認めるものとする。

陽性者・濃厚接触者の待機フロー



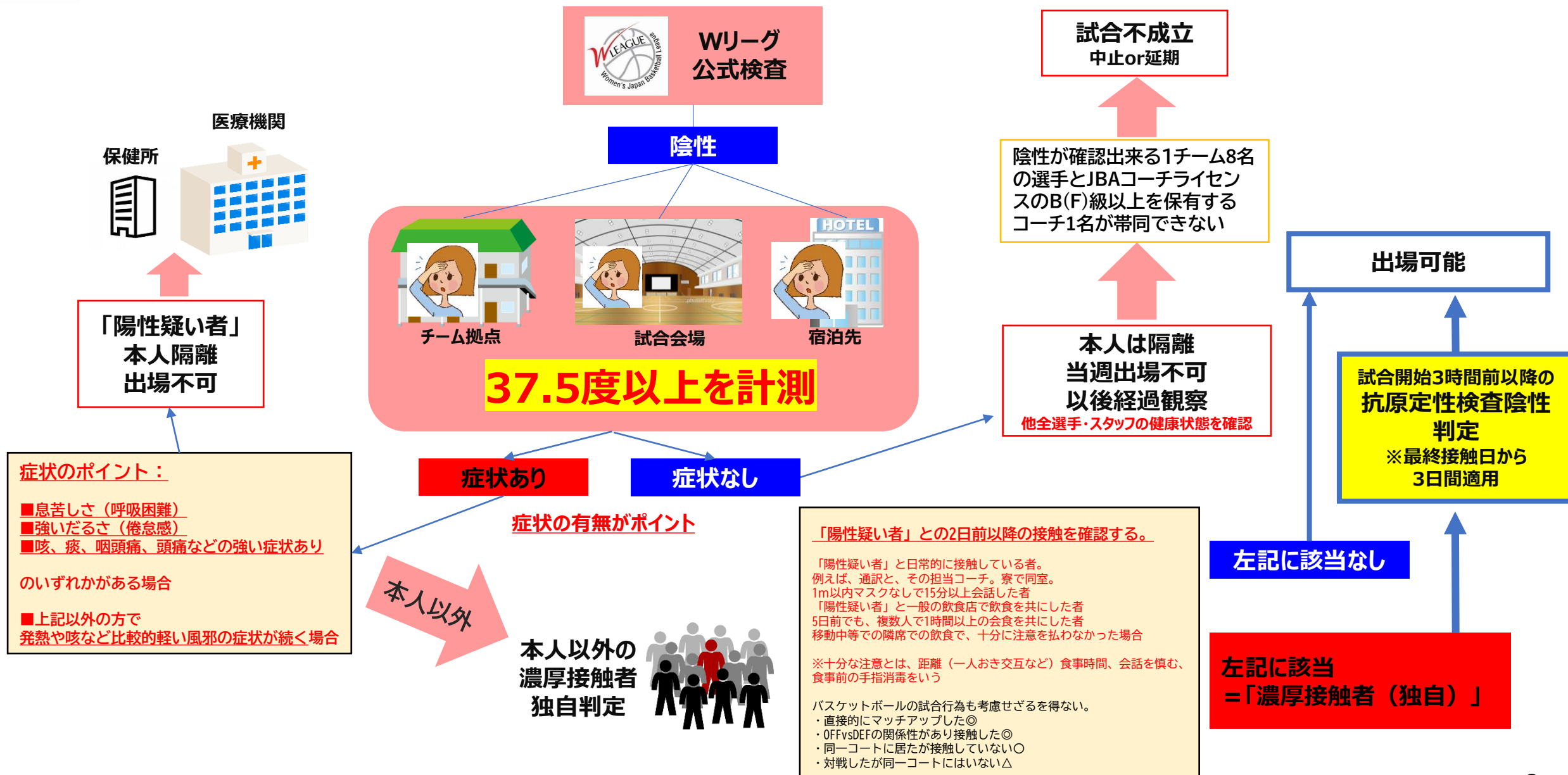
リーグ独自基準 濃厚接触者判定チェックリスト

1. 陽性者・感染者と同居・同部屋あるいは長時間の接触（車内・飛行機内）があった
2. 感染防護なしに陽性者を看護・介護していた
3. 陽性者・感染者の気道分泌液もしくは体液等に直接接触した可能性がある
4. 陽性者と、1メートルの距離で、必要な感染予防策なしで15分以上の接触があった

※食事・練習時のミーティングなども該当

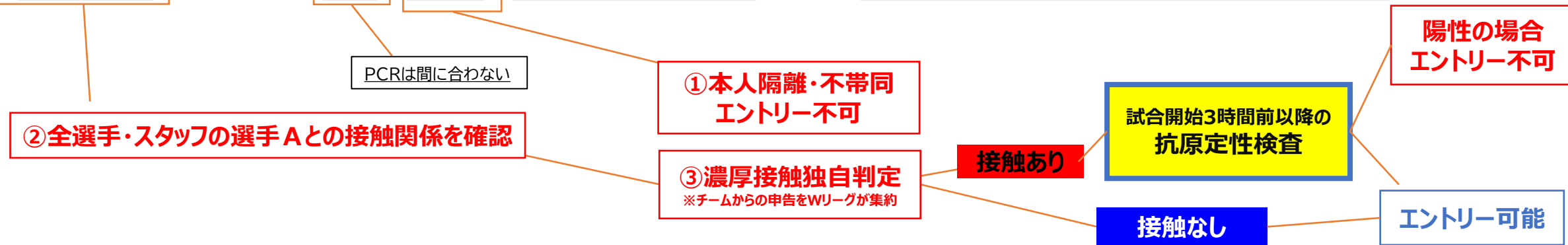
5. 練習・試合を問わず、オンコートにて直接的にマッチアップした

②【選手・スタッフ】試合直近において37.5度以上が確認された場合の対応フロー ～試合日までに陽性・濃厚接触者特定が間に合わないケース～

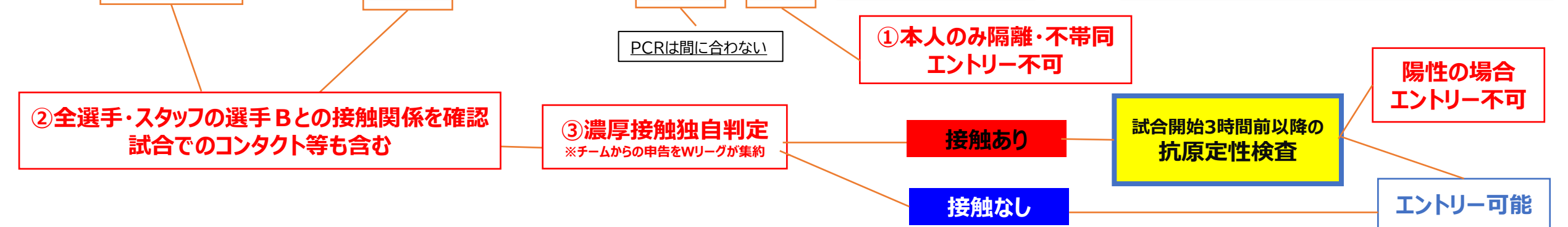


【事例ケース】 第24回Wリーグにおけるエントリー可否判断

ケース1: 当該チームが遠征出発前金曜に選手Aが37.5度以上の発熱もしくは咳、痰、咽頭痛、頭痛などの症状がある場合



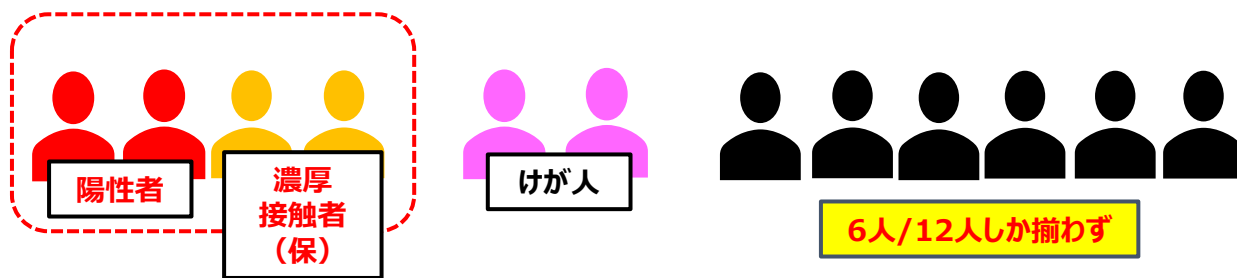
ケース2: 当該チームXが、土曜日にチームYとの試合実施後の日曜の朝に選手Bが37.5度以上の発熱もしくは咳、痰、咽頭痛、頭痛などの症状がある場合



試合成立要件の見直し

本来、チームマネジメントにおいて、選手の疾病等は「不可抗力的」に発生しうるものである。
チームはリーグへの参戦責任において、予め体制を保持しておく必要がある。

「コロナ事由を含み」→陰性が確認できる7名の選手が揃わない

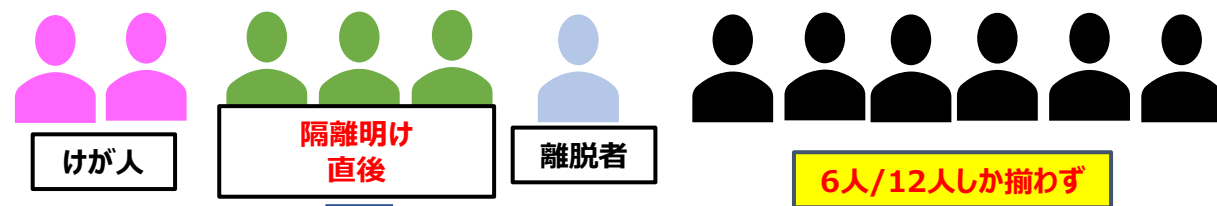


試合不成立
「再試合」or「両者勝点1」

ポイント

「コロナ事情による試合不可案件」か？
「自チーム事情による」案件か？

「コロナ事由を含まない」→7名の選手が揃わない



没収試合
「相手チーム勝点2(20-0)」
「当該チーム勝ち点0」

「コロナ事情」には含まない

「アーリーエントリー制度の活用」など、試合開催に支障のない体制を構築すること